

令和3年度第1回 千葉県ICTアドバイザー会議 開催概要

- 1 日 時 令和4年3月14日（月）10時～11時15分
- 2 方 法 オンライン（Zoom）
※県側及び傍聴等は、県庁本庁舎5階大会議室で対応
- 3 出席者 荒川委員、今泉委員、小池委員、庄司委員、白澤委員、宮入委員、山口委員
県側：野溝デジタル・業務改革担当部長、尾崎情報システム課長、
斎藤デジタル・業務改革担当課長
- 4 議事概要 庄司座長の議事により進行。

事務局からの説明

- （1）千葉県ICT利活用戦略の進捗管理について
- （2）（仮称）千葉県デジタル・トランスフォーメーション推進戦略の骨子案について

各委員からの意見概要

【荒川委員】

- ・ 今年度の取組について、知事と若手職員との意見交換や若手によるワーキングの設置等、ボトムアップ的な趣向や取組がされていることは評価できる。
- ・ この3年間大きく環境が変わっている。現戦略の目標達成状況に基づき、細かな目標の修正を反映するなどの見直しは必要だと思うので、次回以降取り入れていただきたい。
- ・ 新たな戦略の骨子案については、官民一体で今後取り組んでいくものであり、効果があった点については大きくアピールしていただきたい。また、2025年に向けた国を挙げてのDX推進事業で自治体の負荷も高まると思うので、市町村のDX推進に対し、ぜひ効果的な支援をお願いしたい。

【今泉委員】

- ・ 行政のDXについては、BPR（業務改革）が一番大切。単にデジタル化しても、同じようなやり方をしていたら何もうまく活用できない。
- ・ オープンデータの利活用とともに、オープンでないデータも上手く使ってほしい。庁内で県の大事なデータのデータベースを作りそれを活用することで、行政処理がうまく回るということもあるのではないかな。
- ・ 骨子案には、CIO（最高情報責任者）の記載があっても、CISO（最高情報セキュリティ責任者）の記載がないなど、セキュリティ面の言及がないのが気になる。この両者がうまく均衡することで、適切なシステムの構築ができる。

【小池委員】

- ・ 「どんな社会を目指すためにデジタルを活用するのか」という観点が大事。それが逆になり「デジタルで何ができるか」となると、県が目指す社会がどんなものかが忘れられてしまう。ここを変えていかないと戦略を策定していくのが良いと思う。

- ・千葉県が掲げる「一人ひとりが活躍できる社会」には、県民との接点の場づくりというのが今後課題ではないか。DXについての理解を浸透させていくのは大変で、努力と時間が必要。そういった点で、我々委員のメンバーも力添えできるところがあれば。
- ・（チャット）資料に記載があった「人」が主役のDX、「共に」進めるDX、これをそれぞれ取り組みと紐付けると良いのでは。

【宮入委員】

- ・コロナの影響でデジタルが一気に進みました、結果オーライ、ではなく、何が必要だったのか、もっとこうしておけばもっとこうだったはずなど、しっかりと振り返る必要はある。
- ・東芝の島田新社長のお話を聞く機会があった。CIO（最高情報責任者）は社長になれないが、CDO（最高デジタル責任者）は社長になれる。日本ではDX、経営戦略的な視点を持つCDOの設置がまだ少ないと聞いた。
- ・今年度、県の行政改革審議会では、「行政経営」ということを打ち出しているが、まさにこのDX戦略は、経営戦略そのものになっていくと思う。組織変革やビジネスモデルの変革など、そういった経営判断が必要であり、それを忘れると業務プロセスの改善にとどまってしまう（もちろん、それが必要だが）。新たに設置される部署では、是非CDOとしての機能、リーダーシップを発揮していただきたい。
イノベーティブなことをやるには、組織自体もイノベーティブでないといけない。組織全体が、この勢いで思い切って新しいことをどんどん取り入れていくようにしてほしい。
- ・介護士支援のAIアプリなど、新しい便利なツールがどんどん出てきているので、アンテナを立てて最新動向を掴んでほしい。そして、まず、「どういうありたい姿に持っていきたいか」があって初めて、そのためにこういうものを使うとできる、というサイクルを回していったほしい。
- ・個別施策のレベル感がまちまちなので、「どういう状態をめざす」という表現にしっかり落とし込んでみては。そうすると、まず何から始めて、どこに行くのかがわかりやすくなると思う。
- ・行政が陥りがちな、「一斉一律」「平等」「総花」はDX戦略にはそぐわないこともあると思うので、そこが経営判断ということになる。

【山口委員】

- ・DXはすごく広い範囲の話。どこの会社もやっているプラットフォームのDXから、世の中ががらりと変わってしまうようなDXもある、ということがポイント。
- ・（目的からではなく）まずDXから入っていくと、違う方向に行ってしまう。何から入るべきかをよく押さえておく必要がある。
- ・産業について、若干考察が足りないのかなと思う。産業界、特にものづくりのメーカーにとっては、DXは死活問題になってくる。彼らだけではできないことがたくさんあるので、そこを補助してあげると非常に助かるのでは。

【白澤委員】

- ・ 専任のDX担当者がいない市町村などは、DX推進がなかなか進んでいない。また、県のDX推進担当課が、市町村の（DX推進担当課ではなく）業務担当課に直接アプローチすることがないなど、連携に課題があると感じている。オープンデータについても同様。そのため、県からの職員派遣や助成金、県と市町村の共通のツールの利用などを検討いただきたい。
- ・ ペーパーレス化、はんこレスについて、未だに市民が市役所経由で県に提出する書類で、押印・複写式のものがあると聞いている。引き続き改善してほしい。
- ・ サービスデザイン思考として市民と協働すべき。市民サービスにおいて、100%の満足を目指しサービスデザインすることは難しい。県の事業の難しいところは、カスタマーに市民＋基礎自治体があるところ。市民目線を持ちながら基礎自治体＋国との連携ができる人材の投入または仕組み化が必要ではないか。
- ・ デジタル化自体にネガティブイメージを持っている市民もいるため、デジタル推進に対する楽しみや親しみのあるイベント・企画が必要ではないか。千葉県地域IT化推進協議会での部会活動など小さな範囲での取組には金額にも限りがある。
- ・ 県内エリアによって課題も背景もバラバラなので、DX推進においてもエリアによってビジョン（戦略）が異なっているのかもしれないと思う。

【庄司座長】

- ・ 「どういう姿を目指すか」についての書きぶりがもう少し必要だと思う。「一人ひとりが活躍できる社会…」も、その下の具体像もまだ大きすぎる。目指す姿がしっかりしていれば、目標は変えずに施策を変える、目標値を変える等、戦略の随時更新もやりやすくなるのでは。
- ・ 「人」についてももう少し書き込んでも良いと思う。高齢者・子供だけではなく、県庁職員、中小企業、商店街の方など色々なレベルでいろいろな人のリテラシーを高めていく機会を意識してほしい。また、個人が勉強してリテラシーを高めるだけでなく、子どもや高齢者などいろいろな人たちが助け合いながらデジタルを使うことも良い。
- ・ 介護とか「人をケアする人、人を支える人を支える」。そういう人がデジタルでパワーアップすると、結果としていろいろな人が助かるということになるので、「人」というキーワードを押し出すような味付けもできると良い。
- ・ セキュリティの話も大事。（デジタル化で）便利にはなるが、リスクも抱えることになる。
- ・ 戦略を作っていく上では、経営戦略・経営判断的なトップダウンと、自発的な取組であるボトムアップの両方が必要。更に千葉県の場合は、県民とともにということも打ち出していければと思う。

県から

【野溝デジタル・業務改革担当部長】

- ・ 本日は、委員の皆様方から様々な視点でのご意見をいただいた。
- ・ 本日のご意見については、県庁のそれぞれの担当部局とも情報共有しながら、出来る限り戦略の中に反映し、取組に生かしていきたいと思う。